

北区立浮間中学校 学校だより

令和6年2月22日
第10号(2月号)
文責
校長 奥村 宏

◆2年EC岩井 1月26日(金)～28日(日)

北区立中学校12校中最後の実施となりました。1年のうちで一番寒い時期で、天気だけでなく、気温や風の強さも心配の種でした。幸いにも、3日間とも晴れ、気温も高く、風も強くありませんでした。特に2日目の大房岬での活動は、上着を脱いでも汗をかくほどでした。

【1日目】

集合は7:40分。留学生と対面して出発式、バスへ乗車。渋滞に巻き込まれ、岩井学園に到着したのは、予定の30分遅れでした。入園式、昼食。早速午後のプログラム開始。留学生と一緒に活動していくごとに距離も縮まり、イングリッシュキャンプらしくなってきました。今年度は、留学生が夕食後まで宿舎にいることになり、初日から充実した学習ができました。



【2日目】

大房岬自然公園での活動は、生徒を午前と午後の2グループに分けてのプログラムとなりました。留学生と一緒にオリエンテーリングを行い、チェックポイントの問題を解いていく活動と留学生とは別行動で、班ごとにアスレチックを順番に行う活動をしました。どちらの活動にも積極的に取り組み、楽しそうな表情が見られました。

この日の夜の活動は、翌日の発表に向けてのスライド作りを行っていました。



【3日目】

午前中は、留学生に質問した内容をまとめた発表を行いました。どの班の発表も、時間がない中でスライドや台本に工夫の跡が見られました。

閉園式では、留学生から世界地図のプレゼントがありました。サプライズで、2日目の活動の時に大房岬に来ていた子どもを助けた班が、特別に表彰されました。

この3日間で、すぐに英語力が上達するわけではありませんが、継続して努力することで英語力は身に付くことを留学生に教えていただきました。体調不良や大きなけがもなく、無事に帰ってこられたのも、先生方と生徒の普段の行いの成果だと思いました。



◆避難訓練 2月9日（金） 昼休み

今回の避難訓練は、昼休み中に地震が発生したという想定で行われました。教室や廊下にいた生徒は、机の下や廊下の隅で頭を守っていました。避難を開始すると、おしゃべりをする生徒が多くいました。「話はしない！」という先生の指示が何回も聞こえてきました。今回も、浮間子ども・ティーンズセンターと浮間図書館の利用者と職員も参加していただき、生徒と一緒に整列しました。生徒全員の安全が確認されるまで**4分10秒**かかりました。おしゃべりをしていた割には、行動はしっかりとできていました。

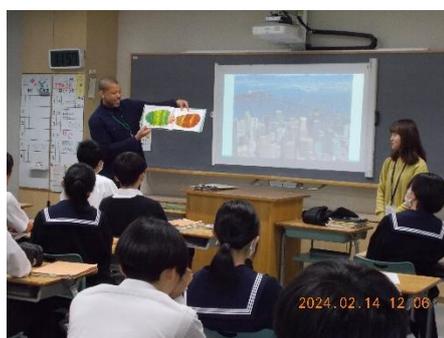


◆SHS 学校訪問 2月14日（水）

去年の11月に、2年生4名が海外派遣に行きました。その時の派遣先であるカリフォルニア州にある「セブンヒルズスクール（SHS）」から、今回は日本に海外派遣生がやってきました。

歓迎会は、体育館で全校生徒対面しました。副校長が英語で司会を行い、生徒代表歓迎の言葉の後、SHSの生徒からは、日本語での挨拶があり、とても流ちょうな話し方をしていました。

浮間中学校での体験は、英語の授業と書写を体験してもらいました。また、引率の先生には英語の授業をしていただきました。給食は、海外派遣の生徒と生徒会役員と一緒にさくら草ルームで食べました。おそらく会話が弾んでいたのではないかと思います。



◆編集後悔

- ・避難訓練に参加していただいたティーンズセンター利用者の皆さんに、「お手本を示すことができず、申し訳ありません。」と浮間中学校を代表して謝罪しました。
- ・SHS 学校訪問の歓迎式では、全校生徒の前で初めて英語でのスピーチを行いました。英文には、全てカタカナでルビを振っておきました。